地域での特定ケア看護師の育成

湯沢町保健医療センター 看護部長　吹田睦美

当院は，新潟県と群馬県の県境の山間に位置する小規模病院で，町の人口は開院当初(22年前)から比べて約２千人減少して，現在約８千人弱となっています．観光地ですので，夏と冬には人口が一時的に増加しますが，オフシーズンには閑散としています．少子高齢化は他の地域と同様に進んでいます．また，この魚沼地域は医療資源の少ない地域としても有名で，医師不足・看護師不足には日常的に困っています．

地域医療振興協会では，「特定ケア看護師」(以下NDC)の育成が2015年から始まりました．急性期病院での活躍がメインのようなイメージでしたが，説明を何度か聞かせていただく機会があり，活躍の場がそればかりではないことが分かりました．そこで，「ぜひ当院でも育成をしたい」という思いが強くなり，NDCの活動をイメージするようになりました．

当院の状況ですが，湯沢町唯一の病院で，地域包括ケアシステムの中で病院部門の役割を担っています．同じ敷地内に，湯沢町社会福祉協議会の事務局と町の福祉保健部・包括支援センターがあり，医療・保健・福祉の連携をとりながら，地域住民の皆さまの生活を支えています．外来では，訪問診療や訪問看護を行い，自宅に居ながらにして医療の提供を受けることができます．

隣の市にあります「ゆきあかり診療所」の支援も行っていますので，少ない医師数ではかなり厳しい状況にあります．外来・病棟・在宅支援・診療所支援・地域での活動など，これらを日々大変な思いをしてやっておられる姿を見て思ったのは，業務負担軽減「タスクシフト・シェア」という点から，「特定ケア看護師を育成すれば活躍の場は多くあるのではないか」ということでした．

患者さまと

人材不足の点から，研修に参加することは困難と感じていましたが，本部の看護師支援がいただけるということで，ようやく参加させていただくことになりました．第１号の職員は，前職でNPの方と活動したことがある方で，以前からNDCに興味があったようで，すぐに受講を希望されました．

日頃の業務の中で感じていること，思い描いていることなどを話し合いながら，NDCとしての活動について具体的にイメージをされており，(まだ研修も終了していませんが…)とても期待しています．

NDCの受講にあたっては，まず院内の周知が必要であり，所属長会議の場でNDCの説明をさせていただきました．その後，特定行為研修管理委員会を設置し，NDC育成準備に必要な情報を共有しました．特に先生方には今後ご協力いた

応援している仲間たちと（前列左端が８期生加藤さん）

だくので，この情報共有の部分はとても重要となります．各師長への説明も師長会等で何回か行いました．同僚のスタッフも，以前NPの方との勤務経験があったので，理解していただくことにあまり苦労をしませんでした（後になって感じたのですが，ここが大きなポイントでした）．NDC研修中の職員が，医師の協力を得ながら勉強会を開催した際に参加しているスタッフもおり，共に学び応援している姿がそこにありました．研修中は孤独になりがちですが，師長や同僚の応援もあり，頑張っているようでした．

現在は，区分別科目実習中で、実習施設の皆さまには学ばせていただき，大変お世話になっております．貴重な経験の中で，さまざまな方からご指導いただくことも，全てが今後に役立つものと思います．

今後ですが，どのように活動をしていただくかを慎重に考えていかなければなりませんが，相談体制や問題が発生した場合の対応方法などについても細やかな対応が必要ですので，体制整備をしっかりとしていきたいと思います．

NDCの活動により，医師の負担軽減（タスクシフト・シェア）だけではなく，看護師の質の向上や，患者の予期せぬ急変の減少，重症化の予防などにつながることも期待しています．また，多職種協働の点でもキーパーソンとなり，「看る」と「診る」の視点をもってよりよい医療・ケアを提供してもらえると思います．

まだまだ研修１年目ですが，第１号の職員に刺激を受けて，第２，第３のNDC希望者が出ることを期待しています．

医療資源の少ない地域でのNDCの活躍を，またご報告できればと思っております．

師長さんと